



山田 勉 議員 … 2 件の一般質問

じゃがりん号の郊外地区運行に向けて

町長：郊外居住者の利便性が向上できるように検討していく



山田 町中循環バスじゃがりん号が通常運行されて3年が経過し、年間1200万円前後の経費で平成26年度は延べ3万7400人以上の利用がなされ、郊外地区の住民はその恩恵がなかなか、公平性に欠けている部分を何とか解消できないか。

福島町政の時に質問された事だが、特に農村地区の繁忙期5・9・10月は、高齢者等の送迎時間が取りづらい状況にあり要望等とりまとめて時間と場所等決めた中で試

福島の交通手段として定着しつつあり、26年度で2150万円の運行経費の内538万円が補助金1273万円を町単独支出しており、地域内バス

と赤字路線バスをつなぎ長く存続させ住民の交通手段を確保する目的で運行している。

町長 3年間の実証運行を経て平成24年度から通常運行を開始し、本年4年目を迎え26年度は3万7439人、定期券利用者が25年度と比較して1300人増加し、

町民の交通手段として定着しつつあり、26年度で2150万円の運行経費の内538万円が補助金1273万円を町単独支出しており、地域内バス

と赤字路線バスをつなぎ長く存続させ住民の交通手段を確保する目的で運行している。

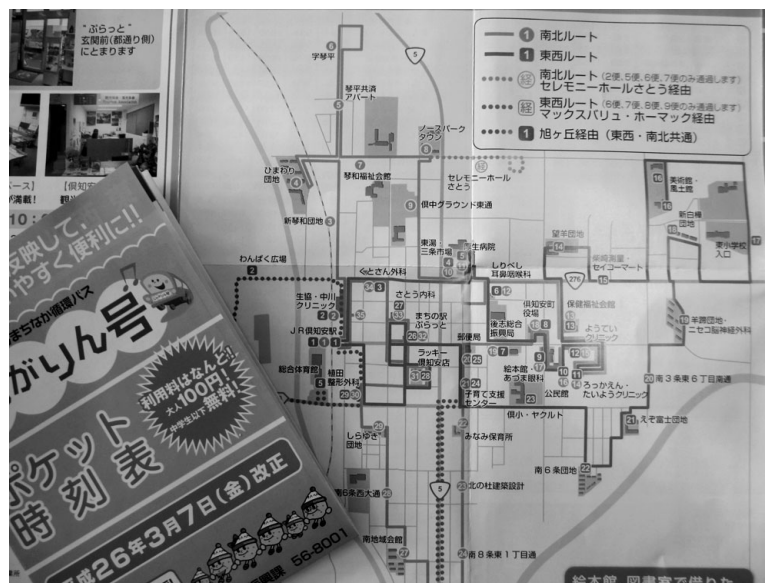
町ではバス会社、教育委員会と協力してスクールバス無料住民利用を実施しているが、今後も郊外居住者の利便性向上が少しでも図られるよう工夫していきたい。

山田 町内と郊外と隔たりのない行政サービスが受けられるよう、大型バスだけに頼らず機能的な方策を考えてもらいたい。

町長 色々な角度から議論し調査・研究して検討していく。

山田 公用車等のリース及び車検整備について、手続きをしても仕事が終わってこないという意見があり、どのような対応になっているのか伺う。

町長 本町には現在、77台の車両を有しておりリース車両が30台、町所有車両47台、内バイク等除く車検必要車両27台となっており、リース車両は管理している担当課において整備業者決定はしておらず、町所有車両について各課により業者決定している。



町長 50万円以下の予定価格であれば、財務規則により入札によらず随意契約により任意で2社以上の見積もりを徴し見積もり額の低い1社と契約を締結することになる。

見積もり業者の選定に当たっては、指名願いの提出業者を参考としているので、是非2年に1度の提出をしつかりしていただきたい。車検整備を含め町が発注する事業については、今後も広く発注機会を提供することが必要であると考えている。